

今、私立学校の

在り方を確かめたい

誠実な気魄

きはく

世田谷区の若林。小田急線と世田谷線をつなぐ街並みは閑静な気配が包みます。陽当たりのよい土地に並ぶインテリジェントな建物群は国士館大学のキャンパスです。夕刻、梅ヶ丘駅、松陰神社駅からのアプローチでは、大学の学生とともに制服姿の列とすれ違います。国士館中高の生徒たちです。

中学校入学直後の4月。中1生たちは長野県白樺湖畔で寝食をともにします。3日間のオリエンテーション合宿です。テーマは「友達・先生との交流を深める」、「ルールに基づいた生活をする」。これから成長をともにする仲間たちの思いやりに気づきます。自分の心遣いに仲間が感謝の気持ちで応えます。

12歳の子どもたちは未熟。日常生活技術も危うい。仲間とのコミュニケーションも不器用。放置すれば、そのまま背丈だけが伸びてしまう。教科知識だけをたたみかければ、頭だけが膨らんでしまう。この機で「生きる力」の礎を授けるのが大人の役割。国士館中学校の先生は、生徒たちを前に大切な使命を肝に銘じます。自分から逃げるな！入学直後の中1生に投げかけます。独り立ちできる人間を志し、心身たくましい人格を育みます。そのために、学習課題も生活ルールも、やるべき課題はまっとうさせる。家庭とも協調して生活習慣を築きます。地域とも連携して社会マナー意識を高めます。

目先の成果だけを追い求めない。遠くの大望を見定め、地を踏み固めながら確実に歩む。それが国士館の道のりです。元気よくあいさつを交わそう。爽やかに返事しよう。そして、正しい言葉遣いを心がけよう。生徒たちは素直に応えます。国士館での歩みの第一歩です。徐々に、幼い小学生から姿勢も整う青年の表情に変わりはじめます。高校に進級したときには、高校入学生よりどっしりと落ちついているとのこと。

放課後の教室でも先生と生徒が向き合っています。授業で不安を抱えたまま帰さない。放課後の呼び出しによる補習は中2、中3と学年を重ねるにつれやがて数が減ります。徐々に自主自律の姿勢が整い、授業や課題に集中し、先生に呼び止められなくても自学に励むからです。さらに、さまざまな経験を重ねます。お隣の大学の研究者たちも中学生を導きます。歌舞伎に感動し、能楽堂にも出向き、本物の芸術芸能から心を磨きます。教室を飛び出し、社会で献身する人々にも出会います。オリンピックの金メダリストを輩出した学校では文武両道は当然。

明治維新後、急激な近代化を遂げた日本は、反面、日本人の精神や伝統文化が揺らいでいました。隣国との争いのなか、社会も混乱を極めました。

柴田徳次郎早稲田大学専門部の学生。国を思う青年を育てたい。心を鍛え人格を養い、国家社会に貢献する智力と勇気を備えた人材「国土」を養成したい。1917年(大正6年)、有志たちとともに、私塾「国士館」を創立しました。建学者は老熟の学者でもなく、政財界の長老でもなく、宗教家でもない。建学時、柴田徳次郎は27歳。青年に導かれた私学は全国的にもまれ。大学の世田谷キャンパスに立つ創立者の銅像は、中学高等学校の生徒たちにも、若々しい活力を注ぎます。

●国士館生に似合う爽快なキャンパス

もし、かつての男子校時代の印象が残る保護者の皆さんであれば、洗練されたキャンパスに驚くでしょう。区役所に隣接する世田谷の中心。明るい街並みになじむキャンパスには最新の設備が整います。大学キャンパスからのアカデミックな気配も届きます。現在、新体育館の建設が進んでいます。2012年の秋の完成予定。温水プール、フィットネスジム、柔道・剣道場などスポーツ施設が収まる「心とからだを育てる」場所。学生ラウンジや室内ガーデンなどコミュニケーションスペースも加わります。国士館生のはつらつとした声が響く日が楽しみです。

放課後は、中学でも8割以上の生徒がクラブに熱中し、心身を鍛えます。やがて、未来を見渡しはじめます。

子どもたちを招く姿勢も誠実な私学です。派手なアドバルーンを打ち上げ、存在を誇る学校ではないのに、その個性は鮮やか。ほかにはない太い幹が支えているからです。男女問わず中学1年生から柔道と剣道に励みます。礼に始まり礼に終わる。競技としての格闘技の技術を鍛える以前に、日本古来の武道のスピリットを吸収し礼節を修めます。さらに、書道・道徳の授業も重なり、倫理観・道徳観を高めます。学力だけに偏らない人材の育成こそが国士館の新中高一貫教育を支える礎です。永きにわたり醸し出した文化が支えてこそ実現できる教育です。

かつて「バンカラ」の代名詞的な存在だった国士館。時代の流れは、ネガティブなニュアンスでの「バンカラ」な気配をめぐりましたが、むしろ国士館とはこういう学校だったのか！と根底のスピリットの核が目に見えます。派手なプログラムに頼らず堅実な教育内容。焦らず慌てず、堂々とした姿勢。集う子どもたちの力を受け止め、一步一步導く「等身大」の教導。地道に学び、熱心に汗を流す。これが学校の原型だと思える学校です。

数値的なランキングでは見えない国士館のスピリットを見つめてほしい。ムーヴでは、国士館の教育への誠実な気魄に、私立学校の在り方を学びます。

「人間はいつ、どこへ放り出されても、
独り立ちできる人間にならねばならない。」

創立者柴田徳次郎のメッセージは、今も世田谷の地を覆います。

中学校は人格形成期。道徳の時間では「エゴグラム診断」を活用します。いくつかの質問項目に応え、自分のパーソナリティを発見します。今、何が不足なのか、何をなすべきかを考え実行に移します。グループで意見を交わし、仲間の個性も認め合います。

国士館の教育を支える2本の幹

「心学」

道徳心や正義感、思いやりの心を備えた人材育成を善って意図した「心の通った学び(武道と礼法)」教育

「活学」

「読書・体験・反省」を基として、物事を客観的にとらえ、社会の一員として自らの存在価値を見つめ、第一線で活躍できる人材育成を前提とした「教養と実践」の教育。

「心学」「活学」を形成する4つの精神

誠意

何ごとにも誠意をもって行動すること。それが人のためとなり、やがては自分のためにもなるでしょう。

誠意

中学高校段階では、何ごとにも前向きに取り組む姿勢が必要です。やがて「勤労」と高まります。

見識

一冊の書、一つの詩から探求が始まります。その先に自分の歩むべき道が見えてきます。

気魄

何ごとにも屈しない強い精神力と忍耐力。日常の学園生活にもあふれています。